

開催地名：高知県高知市	
開催日時	令和4年9月12日（月） 9：10～10：40
開催場所	学校法人高知学園 高知小学校
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	高知小学校児童 約35名
開催経緯	<p>当市では、南海トラフ巨大地震による被害が想定されており、今後30年以内に70～80%で発生すると言われている中、昭和南海地震からかなりの年月が経過し、経験者の減少や高齢化から低年齢層への災害伝承が課題となっている。今回の東日本大震災の語り部による講演を機に、児童と家庭が一体となって防災意識を高め、自分たち身の守り方などを学ぶ機会を作っていくことを目標とした。</p>
内容	<p>（1）防災とは</p> <p>世界中には様々な自然災害が存在している。私たちが暮らす日本でも、地震、津波、台風、火山の噴火、豪雪、ゲリラ豪雨などの災害が毎年各地で発生している。地球自体が動いていて、生きているから、地球上のあちこちで色々な現象が発生し、時にはそこで生活する私たち人間に被害が及んでしまうのである。そう考えると、私たちは自然災害を受け入れ、一緒に暮らしていかなければならない。それでは、自然災害と一緒に暮らしていくにはどのような点に気を付けたらいいのか。それは災害について考えるということ、そして行動することである。自然災害のことをしっかり理解して、危機感を持つということが大切である。そして、想定以上の備えをすることが、防災、減災の基本になる。</p> <p>（2）災害に対する備え</p> <p>通学路でよく見かけるブロック塀は、地震で倒れてきたときにはとても危険である。実際に2018年に発生した大阪北部地震で、当時小学校3年生の女の子が亡くなっている。登下校中に地震が発生した場合は、道にしゃがんだ状態でランドセルのふたを頭にかぶせることで、頭と首筋を落下物等からカバーすることができる。</p> <p>夜間寝ているときの地震対策としては、布団を頭からかぶってダンゴ虫のように体を丸めることで、身の安全を確保する方法を覚えてほしい。そして、靴下、スニーカー、雨合羽、携帯ラジオ、ヘッドライト、防犯ブザーの6つを手の届くところに置いておくことをお奨めする。この6点は避難する際に必要となる重要な物品なので、是非準備していただきたい。</p> <p>東日本大震災以後、食料、飲み水については1週間分を用意しておくように案内している。災害が起こると、コンビニやスーパーの商品は品薄になってしまうので、少なくとも1週間分くらいの備えは確保してほしい。</p> <p>お風呂の水についても覚えておいてほしいことがある。お風呂の水は、断水になってしまったときに、トイレのお水として使用できる。いつも浴槽に水が入っているように習慣づけておくと、災害が発生したときに有効である。</p> <p>（3）東日本大震災を踏まえて</p>

約 11 年前に東日本大震災が起こったとき、私の住む地域では全世帯が 5 日間停電し、ガスは 3～4 週間、水道は 2 週間止まった。指定避難所の茂庭台中学校で、17 日間にわたって避難所が開設され、最大時は 200 人の住民の方々が避難していた。

地震が発生したのが金曜日の午後だったため、地域には高齢者と小・中学生しかいなかった。しかし避難所はすぐに開設しなければいけない。震災当日、私が一時避難場所にいると、中学生が走ってきて、「避難所の準備ができたので避難してきてください」と伝えてくれた。避難所に移動すると、中学生が自らのアイデアで避難所の床に柔道用の畳やマットを一面に敷いて私たちを迎えてくれた。

避難所を開設してからも、会社員や高校生は早朝から通勤・登校してしまうため、運営には彼ら小・中学生の力も必要だった。実際に避難所では、小・中学生が大活躍してくれた。避難所内では必要事項の掲示やごみの分別など、小・中学生が自発的にアイデアを生かして行ってくれた。朝、昼、夕の 1 日 3 回、炊き出しを手伝ってくれたのも中学生であった。自衛隊の方々が届けてくれる避難物資を避難所の一角にまとめ、数量がわかりやすいように配置や管理をしてくれたのは小・中学生であったし、新聞の情報を共有できるように、毎日掲示板に張り出してくれたのも小・中学生であった。毎朝、避難所を掃除してくれたのも小学生である。

このような経験から、避難所では小学生や中学生にも担える役割があるということを是非認識してほしい。いざというとき、皆さんは大きな役割を担うことができる。覚えておいてほしい。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、地震に対する備えについての具体的なお話を聞くことができ、改めて災害に対するイメージを強く認識することができたと思う。また、避難所での小・中学生の活躍ぶりについてのお話しも、児童それぞれが自分の役割について考えるきっかけにしていきたいと思う。有難うございました。